

# 下水道事業会計

## 1 業務の実績

下水道事業会計の令和2年度における業務実績について、まず下水道の普及状況をみると、第1表のとおり、前年度に比べ処理面積及び処理人口はともに微増となっている。総人口普及率は前年度と同じ99.8%、水洗化普及率（対処理人口）も前年度と同じ99.9%となっている。また、管路の総延長は8,300kmとなり、前年度より0.1%の微増であった。

**第1表 下水道普及状況**

項目	2年度	元年度	増減	増減率
処理面積 (ha)	24,790	24,781	9	0.0 %
処理人口 (人)	1,971,100	1,966,100	5,000	0.3
総人口普及率 (%)	99.8	99.8	0.0	-
水洗化普及率 (%)	99.9	99.9	0.0	-
管路総延長 (km)	8,300	8,292	9	0.1

(注) 1 処理人口は、10月1日現在の数値である。  
2 管路総延長のkm未満は四捨五入している。

次に、第2表により処理量の業務実績をみると、前年度に比べ年間処理水量は2.2%の減少、年間有収水量は1.4%の減少となっている。

下水道使用料の対象となる有収水量の内訳をみると、家事用排水量は前年度に比べ5.1%の増加となった一方、業務用排水量は16.8%の減少となった。これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、不要不急の外出の自粛が主因と考えられる。また、仮排水量は94.0%の減少、公衆浴場は5.1%の減少となり、仮排水量にあつては、排水量の多い工事が減少したこと、公衆浴場にあつては、店舗数の減少などから前年度実績を下回ったものと考えられる。

なお、1日当たり処理能力は前年度と同じ117万3千 $m^3$ である。

脱水汚泥量は20万7千tであり、その全てが西部及び東部のスラッジセンターで集中処理されている。

**第2表 処理量及び施設能力の業務実績**

(単位 千 $m^3$ )

項目	2年度	元年度	前年度比較		すう勢比率 (28年度 = 100)			
			増減	増減率	2年度	元年度	30年度	29年度
年間処理水量	312,312	319,452	△ 7,139	△ 2.2 %	91.3	93.4	102.8	101.8
1日当たり処理能力	1,173	1,173	0	-	100.0	100.0	100.0	100.0
年間有収水量	198,747	201,585	△ 2,838	△ 1.4	97.8	99.2	99.1	99.6
家事用排水量	151,984	144,635	7,349	5.1	105.4	100.3	99.6	99.9
業務用排水量	44,848	53,892	△ 9,044	△ 16.8	80.2	96.4	97.8	99.4
仮排水量	66	1,111	△ 1,044	△ 94.0	6.4	105.7	110.8	57.2
公衆浴場	1,846	1,945	△ 99	△ 5.1	91.5	96.4	92.4	100.5
年間雨水処理量	58,560	63,362	△ 4,802	△ 7.6	74.3	80.4	104.4	116.3
脱水汚泥量 (千t)	207	213	△ 6	△ 2.8	95.3	98.1	99.2	98.8

(注) 千 $m^3$ 未満は切捨てをしている。前年度比較は切捨て前の数値から算出している。